

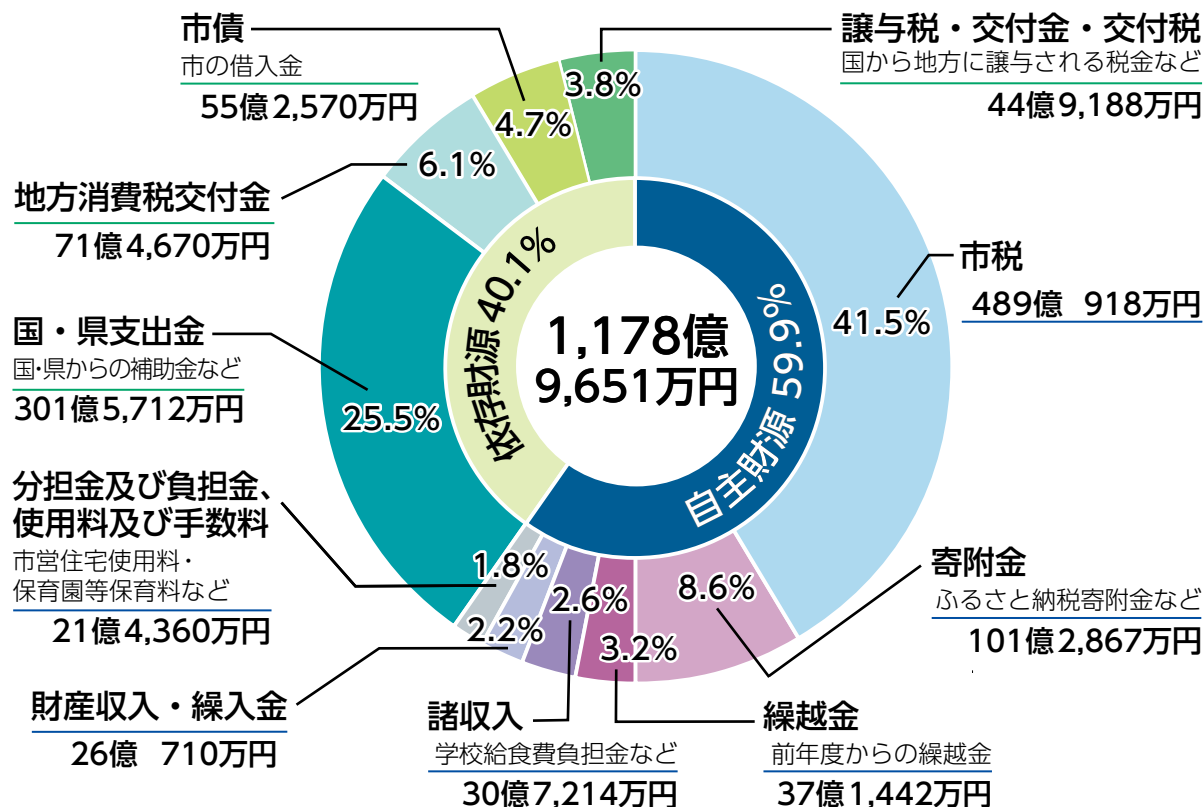
令和7年度 決算報告

皆さんの納めた税金が、この1年間でどのように使われたのかを確かめてみましょう。

問合せ／財政課 ☎0545-55-2725 FAX0545-51-1479



▲詳しくはこちら



市税の内訳

区 分	決算額
市 税	489 億 918 万円
個人市民税	161 億 8,137 万円
法人市民税	26 億 3,251 万円
固定資産税	234 億 1,120 万円
軽自動車税	9 億 4,518 万円
市たばこ税	19 億 5,968 万円
都市計画税	37 億 7,924 万円

歳入の約40%は、市民・企業の皆さんに納めていただいた市税です。令和7年度の市税の決算額は約489億円、前年度と比較して約19億円の増収となりました。

主な理由は、定額減税による減収分の回復及び給与所得の増加により、個人市民税が増加したことや、家屋の新増築により固定資産税が増加したことです。



歳入 552億 1,093万円

歳出 546億 8,924万円

特別会計区分	歳 入	歳 出
国民健康保険事業	227 億 198 万円	226 億 2,986 万円
後期高齢者医療事業	70 億 4,354 万円	70 億 2,836 万円
介護保険事業	219 億 6,805 万円	215 億 9,433 万円
新富士駅南地区土地区画整理事業	23 億 4,126 万円	23 億 1,368 万円
第二東名 IC 周辺地区土地区画整理事業	9 億 7,479 万円	9 億 7,479 万円
森林財産特別会計	9,556 万円	7,724 万円

富士市には12の特別会計（令和7年度）がありますが、表中では駐車場事業特別会計、財産区特別会計（5会計）を省略しています。

特別会計とは

特定の事業を行うため、一般会計と区分けして設けた会計です。事業収益や一般会計からの繰入金などが主な財源で、行政と一体となり、経営・運営を行っています。

特別会計決算



改善

785 億円→**772 億円**

自治体の借金の残高
総合体育館の建設事業
完了に伴い借入額が減少
したことなどにより、全
体として償還額が借入額
を上回ったため、市債残
高が減少しました。

■一般会計の市債残高



改善

59.8%→**51.2%**

新病院建設基金など、
充当可能基金の増加によ
り改善しました。また、
早期健全化基準である
350・0%を大きく下回
り、健全な財政状況とな
っています。

■将来負担比率



横ばい

90.3%→**90.2%**

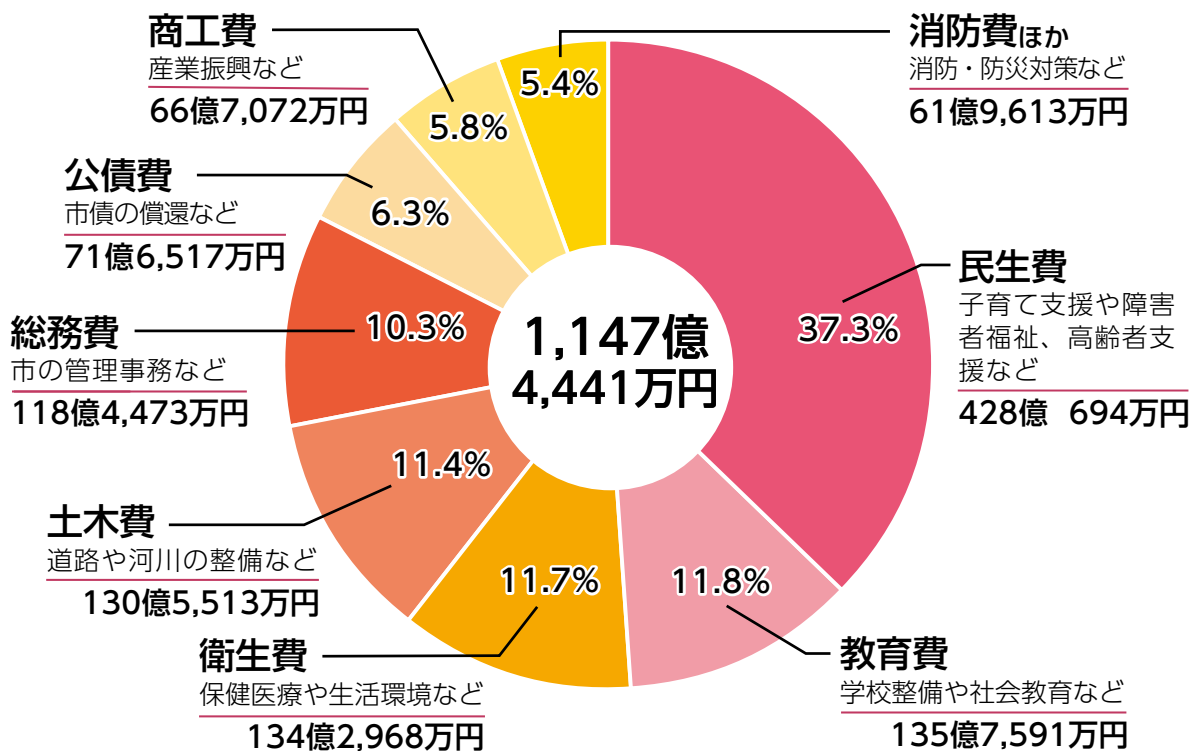
市税など毎年度収入され
る財源のうち、義務的な
経費など、毎年度支出さ
れる経費に充てた割合
経常経費、経常一般財
源ともに増加したもの、
経常収支比率は横ばいと
なりました。

■経常収支比率

富士市の財政状況

歳出

年度内に使ったお金



歳出を年間の市民1人当たりの
金額に換算してみると… (前年度比)

民生費
17万5,618円
(+ 1万 513円)

教育費
5万5,696円
(- 1万 4,003円)

衛生費
5万5,096円
(+ 9,002円)

※令和8年4月1日時点の人口(24万3,750人)を
基に計算しています。

歳出は、目的別に見ると、
子育て支援や福祉関係の費用
である民生費が37・3%を占
め、最も多くなっています。
これは、児童手当や物価高
対応子育て応援手当などの扶
助費が増加したことなどに
よります。
次いで、教育費が11・8%
となり、小・中学校において
GIGAタブレットの更新を
実施したことにより増えます。

歳出は民生費が最多



「さもちゃんと学
ぶ財政の基本ま
るわかりBOOK」
を、ぜひご覧だ
さい。

■病院事業

事業収益合計
179億 4,073万円
事業費用合計
181億 6,926万円
純損失
2億 2,853万円

■公共下水道事業

事業収益合計
63億 8,755万円
事業費用合計
53億 9,463万円
純利益
9億 9,292万円

■水道事業

事業収益合計
44億 8,826万円
事業費用合計
37億 6,069万円
純利益
7億 2,757万円

法令に基づき、独立採算を
原則に、企業的経営で運営さ
れる会計です。

企業会計とは

企業会計決算